



飯野小学校だより

Iino Elementary School News

2021 (令和3) 年

3月5日

No.36

校長 原 裕



■ 3月 桜のつぼみ、啓蟄(けいちつ)

6年生は、今日から卒業式の練習に入りました。卒業の日まで2週間です。校庭の桜の木には、かたい蕾(つぼみ)。今年の開花は、3月下旬頃と予想されています。今日は二十四節気の啓蟄。春は、もうすぐです。

■ 第5回 学校運営協議会(最終)

今年度の学校の取り組みについて、委員から意見、評価をいただきました。学校からは来年度に向けての改善点を示しました。今回から紙面で、何回かに分けて、委員からの意見や評価、学校の改善点について掲載していきます。

委員からの評価、意見

【学力にかかわることについて】

- ◆教室を参観すると、全員が真剣に取り組んでおり、大変良い授業環境である。教育内容や学習環境が変化する中で、多くの成果を出している。
- ◆今年度は新学期のスタートが遅れたこともあって、特に1年生では学校やクラスの決まりなどの指導に時間が取れなかったのではないかと感じる。改めて新学期の大切さを感じる。
- ◆今年度、突然の休校で始まり、1学期は不安な表情で登校する児童も多く見られた。運動会、修学旅行など、様々な行事が縮小になったが、2学期以降はたくさんの児童に笑顔が戻ってきたと感じられることが多くなった。児童にとって、飯野小学校が安心できる場所であったと思う。
- ◆課題に対しては分析と対応を重要な研修の柱と位置づけ、具体的な取組を進めて欲しい。教師の力量を高めることは、確かな学力の育成を図ることにつながる。
- ◆保護者への授業参観を学期1回は実施したい。
- ◆現在の子どもたちは、相手に説明したりするアウトプットの力が弱いと感じる。家族内での会話の減少、読書離れなどが影響している。国語力をつけるには、日常体験や会話や語彙を増やす取組が必要である。児童自らが興味関心を持つ取組などを考えたい。

【授業の改善について】

- ◆外部講師や学習支援ボランティアの積極的活用を図りたい。
- ◆教科指導では、児童のつまづきなどを具体的に把握し、指導に活かしてほしい。
- ◆国語科の学力向上、読書の機会の増加に努めて欲しい。
- ◆教職員は、子どもの変化を見逃さない努力が必要である。
- ◆コロナによる休業後、児童間の学力が開いた気がする。家庭環境も様々な中、自宅学習が難しい子どももいた。スタディ・チェックの結果だけでは見え辛い状況を知って欲しい。



【ICT 機器の活用について】

- ◆ICT の活用によって、教科書だけでは伝えにくい部分がわかりやすくなった。子どもたちの発想がふくらんだり、発表の仕方に工夫が見られたりすることなど、今後が楽しみである。
- ◆ICT 機器と教科書のそれぞれの利点を生かして、分かりやすい授業となるよう、工夫を続けて欲しい。

【読書について】

- ◆絵本の読み聞かせや平和に関する教育は、今後も継続して取り組んで欲しい。
- ◆図書館まつりでは、各クラスでの読み聞かせに ICT を使った新しい活動ができた。
- ◆学校での本の読み聞かせや少人数指導は効果的であったと思います。
- ◆本の紹介の時に、「おもしろい一行、一段落」を示し、続きを期待させるような取組で親しみを増やしてほしい。

【少人数指導について（4・5年生の算数）】

- ◆発表を聞く姿勢が素晴らしかった。また、少人数でも、授業の開始などに理解度をチェックすることで、より効果的にできるのではないかな。
- ◆少人数指導や教科担任制の効果的導入を図りたい。
- ◆少人数指導では、教員が常に児童と対話することで、つまずきなど見つけやすく、早い対応ができていた。

【家庭学習や生活チェックシートについて】

- ◆高学年になるにつれ、ゲームやスマホ時間が増える傾向が見られる。スマホを持っている、持っていない子どもの間で、遊ぶグループが違うこともある。



来年度に向けた改善点



- (1) 学習規律、学習習慣の定着に向けた校内ルールの確認と徹底を図ります。
- (2) 子どもの語彙を増やすための取組として、国語の教科書巻末「言葉のたからばこ」の活用を図ります。また、学習言語に関わる学年の掲示板等の活用方法を検討します。
- (3) 授業では、子どもたちが、論理的に思考し、表現し合う授業を設定し、アウトプットの力を育むようにします。
- (4) 授業は、子どもに付けたい力を明確にして取り組むとともに、その内容や指導方法について職員研修を行います。
- (5) ICT の活用方法については、職員研修を進めます。
- (6) 学期に1回は、読書にかかわる、ポップ作りや本の紹介などに取り組ませます。
- (7) 子どもたちが取り組んだ成果を掲示したり、放送等で紹介したりしながら、全校で読書や言葉を学ぶことへの関心・意欲を高めます。
- (8) 読書の取組の際には、通信等で事前に通知し、保護者の協力を仰ぎ、校内では、図書室の貸し出しの機会を強化するなどの手立てを講じます。
- (9) 少人数指導については、新年度、十分な教員数の配置があって実現できます。教員数の制約も考えながら、効果的な指導の在り方について検討します。
- (10) ボランティア活動については、地域コーディネーターと連携を強化し取り組みます。
- (11) 生活チェックシートは期間を設け、子どもが主体的に取り組める内容を検討します。

